

図書紹介

『教育DXは何をもたらすのか——「個別最適化」社会のゆくえ』

大月書店 2023年3月17日

中西新太郎・谷口 聡・

世取山洋介著

この本は福祉国家構想研究会のオンライン公開連続講座の動画配信を本にしたものである。「福祉国家構想研究会」というウェブサイトに動画があり、現在も視聴できる。 <https://www.shin-fuku-shikokka.org/site/>

本書に次のような記述がある
(123頁)。

日本史の教育では「日本史ができるようになる」とは言わない。「日本史はわかる」ように

なるけれど「できる」ようになるものではないので、「できるようになる」ということを重点化すると教育の範囲が著しくゆがむのではないか。

公開連続講座のタイトルは、「いま、社会変革にながが必要か」(第4講座) 新自由主義教育改革の現段階と対抗戦略—なぜ今「できるようになる教育」なのか? である。理系学科はできるようになると言われるが、社会科学系はできるという言葉より、わかるという言葉が使われる。理系には予算を増やすが、文科系にはあまり増やそうという気がないような感じである。

人格形成にとっては理系も文科系もどちらも大事である。人格形成よりも経済成長に役立つ人材育成を望むからか。

経済成長に役立つのはデジタル。したがって教育の場面にもデジタル社会に役立つ人間を育てることが要求されるのか。

トランスフォーメーションとは「変化・変形・変容」という意味がある。トランスは横切るという意味があり、クロスと同じ、つまりXで表す慣習があり、Xフォーメーション。したがってデジタルフォーメーションはDXという表記になるようだ。

デジタルで社会を変える、教育を変える。はたしてそれはうまくいくのか。

コロナ禍で対面の授業ができなくてオンラインで授業ということが増えた。では教育は対面なしでオンラインだけでできるのか。学生徒同士のみであって先生と学生徒の間関係はオンラインで

できるのか。

教育の目的である人格の完成が
するどく問われている。

つぎのような記述がある（14
5頁）。

学習者の学習要求は、多様な
かたちで具体化し、日々の生活
や人間関係のなかで変化し続け
るだろう。それに、ていねいに
かつ柔軟に応える教育を実現す
るためには、教育者の自由や創
造性が不可欠である。学習指導
要領によって資質・能力を国が
規定し、法的拘束力をもってそ
の育成を学校に課すしくみのも
とでは実現困難である。まして
や「個別最適な学び」などとい
う指導要領にからめとられた学
びでは人格の全面発達などは望
みようもないのでは。
個別最適化については第2章で

詳しく述べられている。

希望として言えば、具体的な実
践事例があってもよかったのでは
ないか。つまり教育DXを乗り越
えた新しい教育の実践事例がほし
かった。

最先端の教育はどうあるべきか、
するどくせまる1冊である。

（いとう ひでよ・所員）

